

和歌にも詠まれた 播州松めぐりコース

9kmコース

コンセプトポイント



1 浜の宮公園

昔の古の松原で、市の木「黒松」が群生する公園。広い公園内にはグラウンド、手軽にジョギングが楽しめるランニングコース、多目的グラウンド、市民プール、運動場があり市民の憩いの場となっている。

チェックポイント 昔より名松林として知られている場所。



2 加古(鹿兒)の浜松

浜宮天神社(はまのみやてんじんじや)境内にある松。菅原道真公が太宰府へ派遣される道中、船から降りてこの地に立ち寄った際、海上の平穏と万民の幸福を祈願し、松の木を植えたと言われている。初代の松は明治初年に枯れてしまい、現在は社殿の東に二代目が生い茂っている。樹齢は約550年で、道真が眠る九州の方向に向かって枝を伸ばしている。

チェックポイント 道真の逸話が残る松。



3 尾上の松

初代尾上の松は謡曲「高砂(たかさご)」に謡われた霊松で、尾上神社の境内にある。地上から3メートルほどの位置から男松(黒松)と女松(赤松)に分れていた。女松はまっすぐに伸び、男松は下方に地面近くまで伸び、また上って再び地に這う形で生えていた。その男松の上があったところを鳥居として、諸人が参詣したという。現在の松は5代目で樹齢は約100年と言われている。

チェックポイント 一本の松が黒松と赤松に分かれることは非常に珍しく、霊松としてあがめられてきた。



4 片枝の松

尾上神社の境内にある松。神社を創建した神功皇后(じんぐうこうごう)を慕って、枝葉がことごとく東に向かって張ったと言われている。そのため「都恋しき片枝の松」とも言われた。その形状は、龍がうすくまった様子に似て美しく、色も鮮やかな松だったが、昭和24年に枯れてしまった。現在は三代目の松。

チェックポイント 東に向かう枝が伸びやかで美しい松。



5 手枕の松

住吉神社の境内にある松。航海の神様である住吉大明神(すみよしだいみょうじん)のお告げにより生えた松と言われている。松が横に傾き、腕枕をしているように見えることから「手枕の松」という名前がつけられた。「播磨鑑(はりまがみ)」にも曾根の松に並び霊松という記述がある。初代の松は大正末期に枯れ、現在の松は3代目。播州松めぐりの東端にあたる。



よりみちポイント

- A** スタート・ゴール地点 別府公民館
- B** 白旗観音寺
- C** 加古川スポーツ交流館
- D** あかがね御殿(多木浜洋館)

【凡例】
— モデルコース
1~**5** コンセプトポイント
A~**D** よりみちポイント

©That's & Trial 2010

